

JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）
日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト
2015年度 第1回指導者候補 日本研修 開講式報告

国際部

2015年6月4日（木）公益社団法人日本柔道整復師会会館において、「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」2015年度第1回指導者候補日本研修開講式が、外務省及び独立行政法人国際協力機構（JICA）より計4名の来賓を迎え開催された（写真1）。

今回の研修員は、エンフタイワン・トゥブシンバヤル研修員（5回目）、ダシュラウダン・ボロルトゥーヤ研修員（4回目）、ムンフバートル・ボロルチメグ研修員（4回目）の3名である（写真2）。

工藤会長の挨拶に続き、外務省国際協力局総括課上席専門官藁谷栄様、外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課上席専門官林伸一郎様、JICA 東京国際センターNGO 連携課専任参事橋口道代様から、ご挨拶並びに研修員への激励のお言葉をいただいた。



写真1 参加者一同



写真2 研修員一同

左からトゥブシンバヤル研修員
ボロルトゥーヤ研修員
ボロルチメグ研修員

続いて研修員から、前回の日本研修後の本国での活動報告がされた。ボロルチメグ研修員からは、本プロジェクトでの講義活動の他に、モンゴル国立医療科学大学附属看護大学（以下「看護大学」）において、地方准医師を対象とした講習会実施の報告（写真3）があった。その他、足関節捻挫の症例報告や、外傷病院での臨床実習を通して膝関節の検査、治療法を習得することを今回の研修目標として報告した。ボロルトゥーヤ研修員からは、オルホン県地方医療センター外傷外科での研修の報告があった。地方医療の中核医療機関において外傷調査および足関節捻挫、踵骨骨折、肘関節脱臼に対しての固定等の実施報告（写真4）を行った。



写真3 地方准医師への講習会
(ボロルチメグ研修員)



写真4 肘関節脱臼に対しての固定
(ボロルトゥーヤ研修員)

トゥブシンバイル研修員は、看護大学での講義の一環として実技指導、伝統医療大学での講義、国立外傷病院での研修、柔道整復術テキスト・ハンドブック配布の進捗状況、柔道ナショナルチームやモンゴル相撲のトレーナー活動、テレビ出演等の報告(写真5)があった。



写真5 伝統医療大学での講義
(トゥブシンバイル研修員)

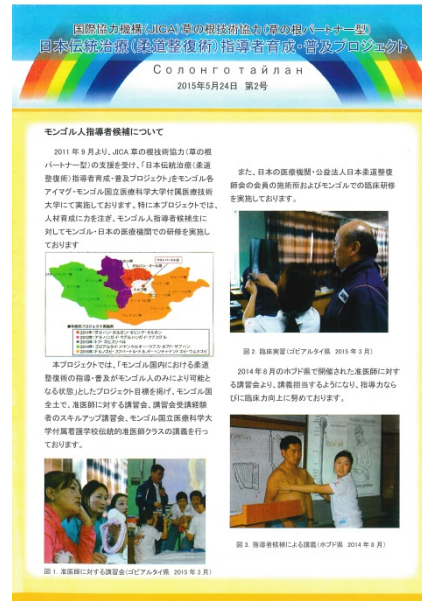


写真6 モンゴル国内での柔道整復術広報誌
(写真は日本語版)

また、モンゴル国内での柔道整復術広報誌であるソロンゴ通信第二号が完成したこと(写真6)、モンゴル国民医療百科事典において「柔道整復術」が掲載されたこと(写真7、8)、看護大学に臨床施設が完成し、その中で柔道整復術を用いた外傷治療を行えるようになったことなどの報告があった。報告終了後、工藤会長へチンギスハーンの額入りの彫刻が研修員より贈呈された。

今回は、北海道の接骨院・医療機関にて約二か月間の研修を予定している。モンゴルは近年急速に発展を遂げ、ウランバートルや地方の中核医療機関においては外傷に対しても、手術が行われることが多くなってきた。一方、研修員の報告によると、その中でも保存療法が可能な症例が多くあり、今後さらに柔道整復術を用いた保存療法の必要性和重要性を広めていく必要があるとしている。

今回の日本研修が最後になる研修員もいる。確実な技術と知識の習得を目指し充実した日本研修になる事を切望する。

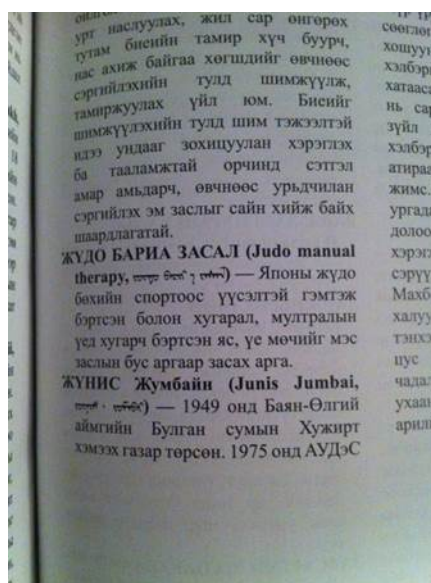


写真7、8 モンゴル国民医療百科事典（「柔道整復術」が掲載）

訳：柔道セラピーは日本の伝統治療で、柔道というスポーツから生まれた技術です。怪我した時、特に骨折した時に関節の脱臼等の怪我を手術ではなく、手で直す技術です。